

平成 21 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事録

日 時：平成 21 年 9 月 1 日（火） 14:00～17:00

場 所：ホテル セントラーザ博多

出席者：魚本、角田、小柳、阪田、長瀧、町田、三浦の各顧問、

宮川委員長、岸幹事長、綾野、鮎田（代理：須藤）、牛島、内田、遠藤、大塚、児島、佐藤（良）、庄谷（代理：阿波）、鈴木（一）、関、近田、辻、鳥居、名和、原田、久田、平澤、三島、森川、守分、山崎の各委員、

石橋、井上、入矢、大津、岡澤（代理：小川）、金津（代理：松村）、鎌田、河合、黒田、塚、佐藤（勉）、下村、新藤、鈴木（基）、武若、堤、富田（代理：田中）、西垣、二羽、橋本、松岡、睦好、横田、六郷、渡辺の各常任委員、

佐藤（靖）、信田、服部、濱田の各幹事、村木（事務局）

配布資料：

3-0：平成 21 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事次第

3-1：平成 21 年度 第 2 回常任委員会 議事録（案）

3-2：土木学会コンクリート委員会・委員会活動報告

3-3：土木学会コンクリート委員会・委員会活動報告 第三種委員会活動状況の報告

3-4：平成 21 年度 コンクリート委員会 一般会計 予算案

3-5：ケイ酸塩系表面含浸材設計施工研究小委員会（275 委員会）委員構成（案）

3-6：土木材料実験指導書編集小委員会（205 委員会）委員構成（案）

3-7：平成 20 年度 活動度個別調査書報告（コンクリート委員会）

3-8：土木学会論文集再編に関する説明資料—論文集再編小委員会（7/28）の議事録（案）からの抜粋—

3-9：モンゴルの構造物設計基準支援活動の経緯（国際室からの資料）

3-10-1：平成 22 年度「出版企画書」の提出について（お願い）

3-10-2：同 [別紙 2] 平成 22 年度出版企画 今後の手続き

3-10-3：学会以外の出版社からの出版について

3-11：委員会支援ツール（JSCE-CMS）の運用に関するルール（案）

3-12：構造物表層のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会（335 委員会）

第二期 委員構成（案）

3-13：コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術研究小委員会（338 委員会）の

2 期目の申請について

3-14-1：若手／中堅実務者のためのコンクリート技術講習会 —設計・施工の基本を学ぶ— 会告

3-14-2：コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術に関するシンポジウム

開催のご案内と発表論文の募集

3-14-3：コンクリート構造物の表層品質評価と耐久性能健勝に関するシンポジウム 開催のご案内

3-14-4：コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウム

～工学系他分野での取組みの紹介と委員会報告～

3-14-5 : International Symposium on Social Management Systems 2010: First Announcement &
Call for Papers, Registration Form

3-14-6 : 鉄筋継手工事標準仕様書（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）改訂講習会

「鉄筋継手」 Vol.44 No.2, 2009.7

議事

1. 委員長挨拶

宮川委員長より開会挨拶があった。

2. 前回（平成 21 年度第 2 回）常任委員会議事録の確認【資料 3-1】

濱田幹事から説明があった。これに対し、下記の質疑応答があった。

- ・ 三浦顧問：記載の「収入の考え方が明確でない」とは？
- ・ 岸幹事長：Web で無償公開する資料への示方書の転載に対する転載料のルールがない、の意。
- ・ 三浦顧問：今回の転載料が前例になるのか？
- ・ 岸幹事長：出版委員会の考え方の前例になると考えられる。なお、出版物の場合は、転載割合に応じた転載料は出版委員会において定められている。

以上の質疑応答を経て、議事録（案）は承認された。

3. 審議事項

(1) 土木学会コンクリート委員会・小委員会活動報告（1 種・2 種）【資料 3-2】

宮川委員長より 1 年間の活動について説明があった。なお、岸幹事長より資料において下記の訂正があった。

- ・ 216 委員会：（誤）コンクリートライブラリー → （正）コンクリート技術シリーズ
これに対し以下の質疑があった。
- ・ 魚本顧問：エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工研究小委員会（276 委員会）では、プラスチックシースについて検討しているか？
- ・ 二羽委員：検討の対象になっていない。エポキシ樹脂被覆 PC 鋼材とプレグラウト PC 鋼材が対象である。
- ・ 魚本顧問：プラスチックシース、グラウト、被覆 PC 鋼材などの使用の組合せにおける方向性を検討してはどうか。
- ・ 二羽委員：今後の課題と考えられる。
- ・ 睦好委員：fib では、環境の苛酷さに応じてそれらの使用の組合せが提示されている。
- ・ 辻委員：ISO22966 において指針類の国際整合化を目指している。276 委員会の件を含め、今後の指針類の策定において国際整合化を念頭に置く必要がある。

(2) 土木学会コンクリート委員会・小委員会活動報告（3 種）【資料 3-3】

岸幹事長より 1 年間の活動について説明があった。これに対し以下の質疑があった。

- ・ 魚本顧問：3 種委員会ではコンクリート技術シリーズとして成果が出される。その内容は、事務局でデジタルデータとして CD などに残しているか？出版数が限られているので、入手困難となることがある。

- ・ 岸幹事長：過去のデータは明らかではないが、最近のものは基本的には残っている。事務局に確認する。今後とも残しておく方向とする。
- ・ 魚本顧問：非破壊検査機器においては、機器メーカーに対し、使いやすいソフトウェアを組み込むよう働きかける必要がある。使い方を誤らないよう、ユーザーフレンドリーな機器が必要と考えられる。
- ・ 鎌田委員：コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会（339 委員会）では検討事項には含めており、今後検討していきたい。

(3) H21 年度 予算執行状況と予算の変更について【資料 3-4】

岸幹事長より下記の説明があった。

- ・ 例年はこの時期の予算の組み換えはないが、英訳費用が大きいため、次年度に支払いを先送りするなどの交渉に基づき、下記のとおり増減した。

示方書改訂小委員会（101 委員会）	+50 万円
規準関連小委員会（102 委員会）	+100 万円
英文版コンクリート標準示方書小委員会（115 委員会）	-150 万円

他も厳しい状況にある。

これに対し、下記の質疑があった。

- ・ 久田委員：土木遺産保存活用連合小委員会は終了しているので計上の必要はない。
- ・ 長瀧顧問：委託の委員会は、最近の事例としてどれぐらいの金額で受けているのか？
- ・ 武若委員：ケイ酸塩系表面含浸材設計施工研究小委員会（275 委員会）の例：800 万円～1,000 万円。エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工研究小委員会（276 委員会）も同程度。
- ・ 町田顧問：英訳の目的を今一度明確に。
- ・ 横田委員（115 委員会幹事）：①ISO19338（Deem to Satisfy）に取り込むために英訳が必要、②アジアをはじめいろいろなところが使える（技術移転）ようにしたい、などを考えている。
- ・ 町田顧問：英訳費用が大きいのので、効果も大きいことが望まれる。寄贈など英文版示方書の使い方工夫が求められる。
- ・ 横田委員：国際会議でブースを開設し展示するなどを行っている。今後とも広めていきたい。
- ・ 宮川委員長：英文版については販売より広めることが重要と考えられる。ウェブからのダウンロードなども考えている。

(4) けい酸塩系表面含浸材設計施工研究委員会（275 委員会）の委員構成について【資料 3-5】

武若委員より、検討予定の内容（施工方法、評価方法、補修設計など）および資料 3-5 により委員構成（案）の説明があり、承認された。

(5) 1 種・2 種小委員会委員追加・変更【資料 3-6】

宮川委員長より、土木材料実験指導書編集小委員会（205 委員会）の委員の変更について説明があり、承認された。

(6) その他

特になし。

<休 憩 15:45～15:55>

4. 報告事項

(1) 平成 20 年度コンクリート委員会活動度個別調査書報告内容について【資料 3-7】

岸幹事長より、下記の説明があった。

- ・ 毎年の提出物である。(1) 社会への直接的な貢献、(2) 学術・技術の進歩への貢献、(3) 国内・国際社会に対する責任、(4) 人材教育・会員資質向上、について取りまとめて提出した。

これを受けて信田幹事より、研究企画委員会で A、B、C による各委員会の評価を審議した結果が報告された。

- ・ コンクリート委員会は下記の結果であった。なお、正式には後日に通知される。評価項目は下記の 3 項目であり、評価結果は予算配分額にも影響するものである。

講習会の参加者数、刊行した書籍の販売部数	A
委員会の収支	A
資料 3-7 の評価	A

(2) 土木学会論文集再編に向けた動向について【資料 3-8】

六郷委員から説明があった。

- ・ 2011 年 1 月に新論文集が刊行される。
- ・ 編集小委員会を、常置委員会の中に置く。
- ・ 通常号と特集号が設定されるが、JCI の論文集もあるので、コンクリート分野については特集号を土木学会から出すことはしない。
- ・ 英語論文集についてはまだ未確定の部分が多い。

これに対し、下記の質疑があった。

- ・ 三浦顧問：同じキーワードを含む論文集の間の調整は？
- ・ 六郷委員：複数の論文集があってもよいのではという考え。投稿者に選定させる。

(3) モンゴルの設計基準策定への協力について【資料 3-9】

佐藤幹事から説明があった。

- ・ 土木学会国際室を通じて、モンゴルの構造物設計基準支援活動の依頼があった。これは、モンゴル土木学会 (MACE) から、モンゴルのコード整備に対する協力要請があったもの。
- ・ 構造、地盤、コンクリートの WG を設置する予定。コンクリートは国際関連小委員会の委員長の中村先生が窓口となる。なお、今回の打ち合わせは佐藤幹事・服部幹事が中村委員長の代理で出席。

これに対し、下記の質疑があった。

- ・ 堺委員：4. 当面の活動 (1) で ISO2394 や Eurocode0 (EN1990) をベースとするのに、土木学会や JICA が協力するのか？コンクリート委員会のドキュメント (示方書) を最大限使わないと、意味がない。

国交省から土木学会に依頼がきたのか、など流れを明確にする必要がある。
これを受けて、今回の打ち合わせに望むこととした。

(4) 平成 22 年度出版計画の募集【資料 3-10-1～3-10-3】

岸幹事長から説明があった。

- ・ コンクリートライブラリー以上の出版については出版企画書の提出が必要。出版計画がある場合は岸幹事長（あわせて村木事務局、出版委員会・小野寺氏）に連絡されたい。
- ・ 学会以外の出版社からの出版については資料 3-10-3 を参照のこと。

これに対し、下記の質疑があった。

- ・ 魚本顧問：出版物の値段の決まり方が明確でないように思われる。JCI に比して安い。シミュレーションなど行われているのか？印刷費だけ計上してよいのか？ノウハウに対する対価はないのか？
- ・ 岸幹事長：経費（会議費など）に対して発行部数×単価がトレードオフするよう検討はしている。審査はあまり厳しくない。

(5) コンクリートライブラリー82号「コンクリート構造物の耐久設計指針（案）」の中国語への翻訳出版について

岸幹事長から説明があった。

- ・ 出版委員会を通じて翻訳出版の可否の打診があり、幹事会で検討の結果、可とした。なお、辻委員に依頼して先方からの確認事項などに対応した。

これに対し、下記の質疑があった。

- ・ 町田顧問：収入は？
- ・ 岸幹事長：出版内規に従い、部数や契約内容に応じて支払われる。15万円が予定されている。
- ・ 町田顧問：15万円は成果に対して安いのでは。また今後、著作権侵害があった場合への対応は？
- ・ 辻委員：著作権については、中国のほうでそれなりにきっちりしてもらおうようだ。値段は、翻訳については安く規定されている。日本語では公表されているものなので、安くした。
- ・ 三浦顧問：前回（平成 21 年度第 2 回）常任委員会議事録に記載の国交省東北地整への転載料の 40 万円とのバランスに問題はないか？また、翻訳する対象部分は明記しておくのか？
- ・ 辻委員：バランスについては何とも言えない。翻訳対象はもちろん明記しておく。
- ・ 武若委員：資料編も翻訳対象に含まれるか？資料編は現在でも有用な内容となっていると考えており、慎重な取り扱いが望まれる。
- ・ 辻委員：資料編も含まれる。

(6) フライアッシュ有効活用調査小委員会指針（案）修正原稿の送付予定について

前川委員の代理で、岸幹事長から説明があった。

現在、最終チェック中で、9月の末ごろには CD で常任委員会に郵送する。特に大きな指摘事項がなければ、11月ごろ出版したいと考えている。必要に応じて11月の常任委員会で諮る。

(7) PC シースの試験方法に関する土木学会規準の修正意見への対応について

鎌田委員から説明があった。

前回の常任委員会で原案を提示し、意見照会の期間が終了した。現在、意見に対応中で、11月の常任委員会で対応内容を諮る予定。

(8) 日本鉄筋継手標準仕様書改訂案に関する意見送付について

岸幹事長から説明があった。

石橋委員および黒田委員から意見をもらい、日本鉄筋継手協会へ転送した。先方委員長の睦好委員から礼状を受け取っている。

(9) 構造工学委員会土木構造物標準示方書（共通編、作用・荷重編）の意見照会について

岸幹事長から説明があった。

常任委員会に加えコンクリート委員会にも意見照会し、数件の意見が提出された。今後、構造工学委員会に転送する予定。引き続き、意見があれば岸幹事長まで提出されたい。

(10) 委員会支援ツール運用ルール案について【資料 3-11】

佐藤幹事から説明があった。

委員会支援ツールをコンクリート委員会としてどのように使うかのルールを策定した。今のところ、共有フォルダの活用が中心。幹事会の担当者が管理し、アップロード掲載などを行うものとする。

これに対し、以下の意見があった。

- ・ 長瀧委員：資料の回覧が容易となるので、必要に応じて、常任委員会だけでなくコンクリート委員会（顧問含む）にも回覧するとよい。

(11) ConMat '09 の開催報告

信田幹事から開催の状況報告があった。

2009年8月24日（月）～26日（水）に、JCIと共催で、名古屋国際会議場で開催した。参加登録者は約330名、投稿約220編、参加24カ国。コンクリート委員会から展示を行った。

ついで、組織委員会委員長の魚本顧問から関連各位の協力に対して謝意が述べられた。

(12) 日本工学会創立130周年記念事業への情報提供について

佐藤幹事から説明があった。

土木学会をはじめとする各学会へ、記念事業への協力依頼があった。土木学会への依頼は「豊かな暮らしを支える土木工学」をテーマとしており、その中でコンクリート委員会には「土木材料が広げる世界」のテーマで執筆依頼があり、これに対応した。

(13) 構造物表層のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会（335委員会第2期）の委員構成について【資料 3-12】

岸幹事長から説明があった。

前回常任委員会で2期目の発足が承認されたのを受けて委員構成（案）が報告された。

(14) コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術研究小委員会（338委員会第2期）申請について【資料

3-13】

武若委員から説明があった。

- ・ 2期目の設置申請があり、これを承認した。
- ・ ついで、委員構成(案)が報告された。3種については2期目も公募をかける必要がある。委員構成(案)に加えて、公募をする。その結果を得て、次回に委員構成を報告する予定。

(15) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告【資料 3-14-1～3-14-6】

- ・ 若手中堅実務者のためのコンクリート講習会(201教育研究小委員会)(資料 3-14-1、渡辺委員)
東京 2回、大阪 1回の計 3回、開催予定。
2009年 10月 14日(木) 13:00～18:00 東京 土木学会講堂
2009年 11月 4日(水) および 11日(水) 17:30～20:00 東京 土木学会講堂
2009年 12月 4日(金) 13:00～18:00 大阪 建設交流館
- ・ コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術に関するシンポジウム(338委員会)
(資料 3-14-2、武若委員)
2009年 10月 16日(金) 10:00～17:00 土木学会講堂
- ・ コンクリート構造物の表層品質評価技術と耐久性検証に関するシンポジウム(216委員会)
(資料 3-14-3、岸幹事長)
2009年 11月 17日(火) 13:00～17:30 土木学会講堂
- ・ コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウム(339委員会)
(資料 3-14-4、鎌田委員)
2009年 12月 7日(月) 13:00～17:10 土木学会講堂
- ・ 社会マネジメントシステム学会シンポジウム SSMS 2010(資料 3-14-5、濱田幹事)
2010年 3月 4日(木)～6日(土曜) 高知市
- ・ 鉄筋継手工事標準仕様書(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事)改訂講習会
(資料 3-14-6、睦好委員)

(16) その他

a) 長瀧顧問

- ・ JIS A 5308 の改訂状況が報告された。「配合計画書」を作成することになったので、それを受け取るよう教育あるいは発注者に指導してほしい。
- ・ セメントの試験成績表に、混和材(高炉スラグ)の配合比を備考欄に書いたらどうか?また、どのくらい正確に書くのがよいのか?意見を聞かせてほしい。
- ・ 鳥居委員:高炉スラグでは、一般的な値である 43%を中心に±1%程度か。またフライアッシュでは、一般的な値である 15%を中心に±2%程度か。なお、骨材が多様であり、アル骨の抑制対策を見直す必要があるのではないかと考えている。
- ・ 長瀧顧問:等価アルカリ総量 $3\text{kg}/\text{m}^3$ は、今のところどうこうするわけにはいかない。混合率を変化させる方向もあろうかと思う。

これらに対する意見は長瀧顧問に送ることとした。

b) 六郷委員：垂井高架橋関連

垂井高架橋の見学会を11月11日（水）に開催予定。なお、委員会活動の経緯としては、1期：原因究明、2期：補修・補強およびモニタリング、3期：モニタリング。

c) 角田顧問：示方書の英訳に関する情報

- ・ 和文版については、設計編は、米国やドイツを模倣したものだった。施工編はわが国のオリジナル。
- ・ 昭和61年に限界状態設計法に移行したときは、そのあと直ちに英訳した。
- ・ 英訳版の活用においては、コンクリート委員会として戦略を持つ必要がある。

d) 指針類の見直しについて

- ・ 阪田委員：指針類も示方書と同じように扱うと考えられるが、指針類の見直しはどうなっているか？
- ・ 宮川委員長：必要に応じて対応している。
- ・ 武若委員：指針の見直しは重要であるが、現在でも使える部分もある。例えば「耐久設計指針（案）」の資料編は有用と考えている。その翻訳においては慎重な取り扱いが望まれる。
- ・ 辻委員：「耐久設計指針（案）」は参照指針から外れているため、問題ないと考えた。
- ・ 魚本顧問：指針の資料編でない部分は公開されている。一方、資料編は各人のデータである。よって、名前を出すなどのやり方があるのではないか。

5. その他

次回幹事会：2009年11月17日（火）（案件の締切は前日11/16）

第4回常任委員会：2009年11月25日（水）14:00～17:00 土木学会

以 上